

2023年度第1回経営協議会議事要旨

- 日時 2023年6月19日（月） 10:00～12:05
- 場所 M&Dタワー26階 特別会議室
- 出席者 田中 雄二郎学長、
氏家 純一委員（学外委員）、川口 陽子委員（学外委員）
河村 潤子委員（学外委員）、福田 誠委員（学外委員）
佛淵 孝夫委員（学外委員）、村上 由美子委員（学外委員）
山口 寿一委員（学外委員）
廣川 和憲委員（財務・資産活用担当理事・CFO）、
内田 信一委員（医療担当理事）、
古川 哲史委員（研究・改革担当理事）、
若林 則幸委員（教育担当理事）、
東條 有伸委員（産官学連携・教員人事担当理事）、
今村 聡子委員（事務総括・男女共同参画・障害者雇用担当理事）
松澤 香委員（ガバナンス改革担当理事）
- 陪席者 瀬下 明学長特別顧問、藤谷 茂樹監事、岸上 恵子監事、
藤井 靖久病院長、新田 浩首席副病院長、清水 重臣副学長、
坂本 貴財務部長、
白谷 正洋戦略企画課長、井上戦略企画課参事
- 欠席者 遠藤 信博委員（学外委員）、藤本 陽子委員（学外委員）

○ 確認事項

1 各委員自己紹介

会議に先立ち、各委員、陪席者より自己紹介が行われた。

2 2022年度第8回経営協議会議事要旨（案）について

田中学長から、2022年度第8回経営協議会議事要旨（案）について、資料1に基づき確認を行い、原案どおり承認された。

3 学長の所信について

田中学長から、学長の所信について、参考資料に基づき説明があった。

また、佛淵委員から、東京工業大学との統合後の病院の位置付けについて、特に病院の収益や予算に対する認識は、今から両大学の学長を中心に話し合っていたいただきたい旨の発言があった。

○ 審議事項

1 2022年度決算について（案）

廣川理事及び坂本部長から、2022年度決算（案）について、資料2-1から資料2-3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

また、氏家委員から、受託研究費が対前年度比で伸びていないことや、今後の見通しについて質問があった。この質問を受けて、東條理事から、病院の企業治験が減っている影響であると考えられるが、詳細な理由は分析中である旨の説明があった。加えて、廣川理事から、昨年度はいくつかの大きな企業治験が終了する切れ目の時期であったこと、収入面だけではなく、良い薬をより早く社会に届けるという教育病院としての使命もあるため、今後も積極的に企業治験を行えるように考えていきたい旨の発言があった。続けて、田中学長から、これまで受託研究費は上昇傾向にはあったが、企業治験の切れ目のような場合に前年度比で減収になる状況であったので、統合による受託研究費の一層の向上を期待したい旨の発言があった。この説明を受けて、氏家委員から、受託研究費を安定的に伸ばしていくことについて、先回りして計画を立てていただきたい旨の発言があった。

村上委員から、大きな成長が期待できるマーケットとして、治験や臨床試験にIoT、AIが入ったもの（デバイス、テクノロジー系統）がどの程度あるかについて質問があった。この質問を受けて、東條理事から、本学の治験は現段階では創薬の比率が高いとの回答があった。続けて、田中学長から、規制の厳しい創薬に比べると、デバイス系やテクノロジー系の治験のポテンシャルは高く、統合により伸びる部分でもあるので、

治験の数をたくさん取れると考えている旨の発言があった。また、村上委員から、どのような形でテクノロジーという側面が共同研究の内容に入っているか、海外が日本の市場のどこに興味を持っているのかという二つのポイントを考えながら、いかに外部のお金を取っていくのかという戦略を、本協議会の場で議論することも重要である旨の発言があった。

さらに、村上委員から、受託研究費のインバウンドとアウトバウンドの内訳について質問があった。質問を受けて、東條理事から、病院では企業から依頼されるものが多いが、大学や病院の一部は、研究者のシーズを元に企業と共同研究を行っている旨の説明があった。続けて、田中学長から、我々の持つ知恵やアイデアを社会と共に実現するだけでなく、社会のアイデアと我々が一緒になることも重要であり、今回の大学統合を機に我々ができることが増えると思われること、また、質問があった内訳については後日報告したい旨の発言があった。この発言を受けて、村上委員から、医師や研究者の持つシーズを事業化して商業路線に乗せることに対するインセンティブと、大学が持っていきたい方向性の足並みをどのように揃えるかは、議論のポイントになる旨の発言があった。この発言を受けて、田中学長から、インセンティブについては現在も外部資金の一部が研究室や研究者にフィードバックされる規定や、外部資金獲得額に応じてボーナスに加味される等の規定はあるものの、それらの内容が妥当かどうかも含めて検討したい旨の発言があった。

福田委員から、産業構造自体が変わっているため、現在芽が出てきている分野の受託研究を東京工業大学とともに獲得していくようにしてほしい旨の発言があった。

山口委員から、病院では臨床研究中核病院の認定を目指しているが、この認定を受けると受託研究収益が増えることが見込めるのか、また、海外からの投資を呼び込むという点でも効果があるのか質問があった。この質問を受けて、内田理事から、今後は山口委員の認識のように、臨床研究中核病院による受託研究費の増収を検討することになると思われる旨の回答があった。続けて、田中学長から、大型研究費は臨床研究中核

病院が絡んでいないと獲得できないこと、臨床研究中核病院ではクリニカルリサーチコーディネーターを多く雇用する必要があるので、収益増によりどれくらい還元できるかということの検討が必要である旨の説明があった。この説明を受けて、山口委員から、ぜひ臨床研究中核病院の認定は実現していただきたいが、海外の投資を呼び込むことを視野に入れると、新大学における病院の姿を明確にしつつ充実させていくことが必要である旨の発言があった。

河村委員から、受託研究、共同研究あるいは受託治験が実際に収入として入るまでに一定の時間がかかることが思料されるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が外部資金収入にも及んでいるかどうか、また、影響があったのであれば、行動の制約が無くなることでまた上昇していくことが見込まれるのか質問があった。この質問を受けて田中学長から、新型コロナウイルス感染拡大の影響はあったと考えており、研究者の交流に制約があったが、行動の制約がなくなることでネガティブな効果が消えてくることが期待されるので、今後は研究者の交流をオーガナイズする仕組みの検討が必要である旨の発言があった。続けて、東條理事より、大学全体の産学連携収入はコロナ禍においても伸びており、今回の伸び悩みは新型コロナウイルス感染症拡大によるものというよりも、大型の企業治験が終了したことによる影響があったものと考えられることや、今後はAIなどの特定の分野に戦略的に焦点を当てていく必要があると考えている旨の説明があった。

川口委員から、健康管理を対象とした研究を広げていくことで、遠隔地における健康管理への応用や、企業等で活用できるシステムの構築といったものに繋がられるので、プロモーションを積極的に行い、企業とコラボレーションをする必要がある旨の発言があった。この発言を受けて田中学長から、本学は歯科領域で世界第3位であり、ブランディング力が高いことから、デジタルヘルスケアをビジネス化することについて検討していきたい旨の発言があった。

瀬下顧問から、医療では目先の患者の治療に専念するという前提があ

り、シーズの発見は今の組織では難しいと思われること、健康管理や健康予知で新しいビジネスが出てくると考えられるので、新大学の新しい組織や工夫が必要と思われる旨の発言があった。

2 令和4年度自己点検・評価報告書について（案）

清水副学長から、令和4年度自己点検・評価報告書（案）について、資料3-1から資料3-3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

3 学長選考・監察会議学外委員の選任について（案）

田中学長から、学長選考・監察会議学外委員（案）について資料4に基づき説明があり、審議の結果、氏家委員、遠藤委員、福田委員、村上委員及び山口委員を選出することが承認された。

4 2023年度理事・監事の賞与成績率の決定について（案）

田中学長から、理事・監事の賞与成績率の決定（案）について、2023年度の理事・監事の賞与成績率（6月期及び12月期）に関して、学長一任とすることについて審議願いたい旨の提案があった。該当理事・監事の退室後、田中学長から、資料5に基づき説明があり、審議の結果、2023年度の理事・監事の賞与成績率（6月期及び12月期）に関して、学長一任とすることについて決定された。

○ 報告事項

1 国際卓越研究大学の申請について

古川理事から、国際卓越研究大学について、資料6-1から資料6-5並びに追加資料に基づき説明があった。

また、佛淵委員から、成長戦略とあるが、成長戦略は企業戦略と言われており全体が見えないため、より包摂的な概念である経営戦略と呼んだ方が良いのではないかという旨、また病院セグメントでは外部資金の

中から病院に入る分はほとんどなく、病院の建設費の返済はあくまでも病院収入で償還しているという状況であることを、大学統合にあたり東工大にも理解いただく必要がある旨の発言があった。

2 本院に係る新型コロナウイルス対応及び経営状況について

内田理事から、本院に係る新型コロナウイルス対応及び経営状況について、資料7-1及び資料7-2に基づき説明があった。

3 第3期中期目標期間終了時評価結果について

清水副学長から、第3期中期目標期間終了時評価結果について、資料8-1から資料8-3並びに参考資料に基づき説明があった。

4 2022年度国家試験受験結果について

若林理事から、2022年度国家試験受験結果について、資料9-1及び資料9-2に基づき説明があった。

5 学部入試の実施状況について

若林理事から、学部入試の実施状況について、資料10-1及び資料10-2に基づき説明があった。

6 経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に向け審議、活用した例について

清水副学長から、経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に向け審議、活用した例について、資料11-1及び資料11-2に基づき説明があった。

7 男性育児休業取得促進に関する宣言について

今村理事から、男性育児休業促進に関する宣言について、資料12-1及び資料12-2に基づき説明があった。

8 2022年度資金運用実績について

田中学長から、報告事項8については資料配付のみとし、個別の説明は省略する旨の発言があった。

(以上)